

## ☆ 肚

私の軍隊生活、それは、忠勇の兵となることである。一日も早く役に立つ兵になることである。「軍隊内務書」にも示す通り、軍人精神を涵養し軍紀に慣熟し、鞏固なる團結を完成するにある。それより他に目的はない。

然し、私自身としては、この兵營生活の目的の根幹ともなるべき私自身の肚を錬りたいと思つてゐる。砲彈兩飛の中にも動かざること山の如き膽力、いつ如何なることに遭遇しても、あはてふためかざる肚である。

この肚を錬りたいと思つてゐる。如何なる人の前に出ても、決して憶せぬ心を錬りたい。而して、萬死に一生を得て歸還し得ば、村の教育のために一生をささげたいといふ肚である。

草場弘先生が「皇民錬成の哲理」の中に述べられた如く、

最大の革命は最小の中心を持せぬ時は必ず抽象化して墮落し失敗する。一校一村の革新を外にして日本

教育の革新を企圖するは、抽象的イデアリストである。同時に亦、全體をその眼中におかざる一點の改革は、利己妄斷に陥つてやがて自他共に傷くであらう。一に立つ全、全に立つ一、これのみが眞の事業であり、眞の革新である。

この言ほど、私の肺腑をうつたものはない。私は最早右顧も左眄もない。小なりとも村のため、村の教育のために一身をなげうつ、肚を錬つて見たいと思つてゐる。

迷妄をうつちやつて誰が何といつても、己れの信じた道に猛進するの概だ。社會的地位も物的條件もけ飛ばして村の人柱になりたい。この肚を錬りたいと思つてゐる。

## ☆ 終りに

一先づ、この雜文を結ぶことにする。この邊で私も筆をつづけることが一寸困難な事情にある。私はまだ一回も砲彈の下をくぐらず、敵の死骸を踏み越えてゐない。

もつと自分が血なまぐさき還境におかれたら、切れば血のにじむやうな文が書けたかも知れ



ない。しかし、この文は私の遺言状——教育界にささげる遺言状とでもいふ気で書いたのである。せめて讀者の方々に多少でも、私の言はんとすることが汲んでいただけたら幸甚この上もない次第である。

昭和十七年九月十五日初版印刷  
昭和十七年九月十八日初版發行

二、〇〇〇部

定價一圓五十錢

著者 前原 香  
發行者 古閑 停  
印刷者 (東京四〇七三番) 川瀬 丙午 郎  
東京市神田區一ツ橋二ノ九  
東京市神田區錦倉町七ノ九

發行所 東京市神田區一ツ橋二ノ九  
第一出版協會  
振替東京四八九五五番  
電話九段二四〇五番  
會員番號一一六〇三六番

配給元 日本出版配給株式會社  
東京市神田區淡路町二ノ九

認 承 協 文 出  
號 130171 あ





# 皇民鍊成の哲理

青山師範學校教諭  
國民訓育聯盟理事長

草場 弘著

A5四二五頁  
布裝上製函入  
定價 三・五〇  
送料 〇・一八

大東亞教育建設  
皇國師道の修練  
有と自由の西洋  
哲學を排撃し、  
空と觀自在の東  
洋哲理に立ちて  
至誠哲人の著者  
熱血の獅子吼！

(内容一覽)  
第一篇皇國大業と教育  
第一章支那事變の世界史的意義 第二章皇國の大業 第三章時局と教育  
第二篇皇民鍊成の方向  
第一章日本精神の教學 第二章皇民の教育 第三章鍊成の教育  
第三篇皇民鍊成の原理  
第一章有と自由と自我の西洋哲學 第二章空と觀自在の東洋哲理  
第三章間柄的人間學  
第四章總論の倫理  
第五章善諦の處生哲理  
第六章社會國家哲理  
第四篇皇民鍊成の實踐  
第一章皇國擔當の人物 第二章皇民鍊成の礎道 第三章皇民鍊成の實踐  
第五篇皇民鍊成の環境  
第一章現代教育と訓育の障礙 第二章日本精神の道場としての家  
第三章郷土農村の再建 第四章郷土教育の典型  
第五篇學校と塾 第六章皇國青少年團の再建  
第六篇皇國師道の鍊成  
第一章東洋の師道 第二章教育者の自己鍛鍊 第三章日本精神の講習 第四章行の人の、石川理紀之助翁  
究篇明治天皇御製と皇民鍊成  
第一章聖蹟を慕ひまつりて 第二章明治天皇御製と教育  
不朽の名著！

# 刷新・修身教育體系

草場 弘著  
定價 一・五〇  
送料 〇・一四

本書はやゝ舊著に屬するも、著者の修身教育革新論は正に「ヨイコドモ」の上に出づるものあり。修身教育研究者に一讀を薦めたく書

# 皇民新教師の書

千葉縣東金國民學校校長  
鈴木 源輔著

B6五二八頁  
教育翼賛版  
定價 二・五〇  
送料 〇・一四

既に世に名ある  
東金教育の全貌  
卓抜なる識見と  
力強い實踐行態

一名「助教」の教育學ともいふべく國民學校の目的から板書の仕方迄平叙全卷十四篇。即ち皇國の道と教育―日本教育の具體的目的―方針―師道と子弟道―教育の領域―教育實踐の兩極―皇國意志の教育―皇民鍊成と教科―學校訓育の具體相―學級訓育の具體相―家庭並社會に於ける訓練―授業に於ける實踐問題―各科授業法―體育に於ける實踐問題。而して各篇を更に章節に分ちて平易に詳細に實に手にとるやうに具體例をあげて説明し女學校を出たばかりの女教師や教育學の本の一頁も讀まぬ方にもわかる。

# 皇民西條教育

廣島縣西條國民學校校長  
檜高 憲三著

A5三〇〇頁  
布裝上製函入  
定價 二・五〇  
送料 〇・一四

この校長を見よ  
この學校を見よ  
この兒童を見よ  
國民學校の眞姿

國士的識見と風格の楡高校長、既に黨化は社會に及ぶ西條教育郷土建設記全卷十四篇―私の教育信念―西條教育要覽―不動の校訓―校風―教育一體觀―同人行滴―西條訓育の實相―師弟同行―眞知の鍊成―身體修練―行事曆―時局教育―社會教育―女教師道。而して各篇數節に分つ。例へば私の教育信念には、昭和維新は西條から―心の座を吹き拂へ―天下の國士を自任せよ―行じ難きを尙行じよ―實踐は力なり―職はざるもの生きるべからず―功罪共に蓋棺の後にあり―笑つて死なん御民われ、の如し。體讀書。



# 教行始業の鐘

鎌倉第一國民學校長  
國民訓育聯盟監事  
池上敏郎著

B6二八〇頁  
布装上製函入  
定價一・八〇  
送料〇・一四

國心家心の教育  
を説く池上校長  
國民學校の行態  
正に茲にあり。

躬行以率！ ひとぶるに俱學俱進の相、この隨筆風の手記の中に隨如。  
○餘韻—始業の鐘—勤行の鐘—清掃訓練—はたき方と拭き方—雑巾の始末  
自ら太れ—下駄箱—猫になるな—訓育のコツ—半分の先生—定價順(下略)  
○心眼—玄關—學校といふもの—穴のま—落葉—食事訓育—受持の先生  
蜘蛛—かごかき—表と裏—しつけ—相撲とり—眼を開け—叱り方—(下略)  
○勤行—修業の苦—お守り札—鬼の眼に涙—不動尊—油斷大敵—小さな花  
—眞劍の力—心掛一つ(下略)婆心—苦言—精神のおき所—老婆の心(下略)

# 師道躬行の銘

鎌倉第一國民學校長  
國民訓育聯盟監事  
池上敏郎著

B6二五〇頁  
紙装上製函入  
定價一・八〇  
送料〇・一四

校門から厠の隅  
まで薫風満ち溢  
る、鎌倉第一校  
の教育を見よ。

師道勵勵！ ひとすらに自肅自誠の姿、この隨筆風の手記の中に隨如。  
○時間勵行—言葉づかひ—禮法實踐—提出物—机の上—先生の匂ひ—小使  
室—登校の道—教室經營—板書—處を得—外遊び—話題—問の分配—心理  
的公平—紙屑—全校の先生—全校一字—絶對隨順—集團の蔭に—非常時に  
○銃後—勇士—教師の質—容儀—訓練—學校—訓育—探す—子供—目—劣  
等兒—女先生—が少くなつた—學校—家—墓穴—掘る—勿れ—等々(以下省略)  
是れ五十學級六十職員二千五百兒童、全校一家の如き池上校長の師道訓。

# 思索教育者と人生觀

小西重直博士序  
石丸悟平博士序  
高瀬越著

B6二一八頁  
定價一・八〇  
送料〇・一四

御民われ皇國の  
榮ある教育者と  
して、強く高く  
尊く生き抜かん

○人生を語る—自己究明—家庭よりの人生觀—教育人生を語る—宇宙の法  
則—生命の流れ—生命の根柢を流るるもの—人生は眞如の上に立つもの—  
宇宙と人生—宇宙力と矛盾—人生を如何に生くべきか—現代を語る—生の  
不安—生き方の極意—教育者の煩悶—拔擢の道—名もなき徳を説く—勿れ—  
訓育の徹せざる理由—教育者と人生觀—教育者なるが故に—人生を一貫す  
る問題—個に徹する人生指導—人生觀への教育—日本人としての人生觀—  
職員室の哲學—必ず成功する教師—知命の人生觀—育英のよろこび等々。

# 師道教行の鞭

澤木興道老師題字  
大久保龍著

B6二四三頁  
定價一・八〇  
送料〇・一四

主として道元禪  
師の教へを師道  
修練の上に行す  
る血みどろの姿

○第一恒道 徹底—大愛—水月の理—門欄—肚と頭—知と行—度量等(下略)  
○第二成就 正師の徳—校長の器—無私の愛—智恵現成—小使の實心(下略)  
○第三隨喜 道元と典座和尚—一二三四五が文字—隨喜—無思惟願行(下略)  
○第四安心 山河不滅—隨前馬後—聖職—愛敬—自知と芭蕉—誠訓導(下略)  
○第五禮拜 燈み切つた心—この身の儘—火のついたローソク—等(下略)  
○第六修禪 教育に安心—如是—粉骨碎心—馬鹿下駄—煩惱の正體等(下略)  
○第七思慕 良寛和尚。(本書は禪話の引例よろしく修練講話資料にも好適)



# 親心私の訓育手帖

草場弘序  
久保田清著

B6二〇七頁  
布装上製函入  
定價一・五〇  
送料〇・一四

訓育は實踐なり  
訓育は躬行なり  
愛と熱と努力の  
この師弟同行記

著者は多年水戸市城東國民學校に奉職、同校を訓育校として築きあげた中心人物、今香取國民學校長。熱と愛、血みどろの汗みどろの日記也。草場先生は本書をベストロッツの「育兒日記」ザルツマンの「蟻の書」かと絶讃。  
第一級訓「努力」に勉むる 第五劣等兒の指導 第九 變つた記念の約束  
第二この母にしてこの子 第六職を求めて十年 第十 無口の子  
第三果して總領は甚六か 第七婚禮に招かる 第十一 優等生正子  
第四誰の罪か 第八愛にうえて 第十二 二人知れぬ悩み

# 皇國驍の記録

池上敏郎序  
中西明子著

B6二〇〇頁  
布装上製函入  
定價一・五〇  
送料〇・一四

國民學校令と驍  
特に女兒童の驍  
特に女教師と驍  
涙ぐまじき手記

著者は福岡縣戸畑女子國民學校に職を奉ずる女教師、主として女兒擔任女兒の驍に粉骨、師弟同行躬行以率、生命を教育に捧げて洵に涙ぐまじいばかり。本書はその血の出るやうな手記である。國民學校は特に驍を重んじ女教師は全校の驍訓育の中心となるべきもの、是の手記公刊の所以也。  
○序驍とこども ○序説―國民學校令と驍―驍の理論的考察―驍と私の學級經營―驍の實際―禮法生活の實踐―家庭との聯絡―女兒の特性に應じて―自律的訓練―現在努力しつゝある驍(十四項細叙)等々。凡て具體記録。

# 野口英世の母

小西重直博士序  
文部省圖書監修官  
宮瀨陸夫著

B6二一〇頁  
輕裝普及版  
定價一・〇〇  
送料〇・一〇

この「母」ありて  
この「子」あり。  
「日本の母性」の  
龜鑑といふべし

極貧且つ無學の田舎、愛と誠實と信仰とによつて醫聖を育て上げた傳記。小西博士序して、この全心全靈を子女の教育に打ち込む崇高壯烈な女性はそもく世界に何人あるであらうか、純情なる母の親心と孝心深き博士の子心の物語、涙なしには讀み得ない血の滴りである……日本のよき傳統「日本の母」の日にすたりゆく今日、母及び母たるべき多くの子女に是非とも讀ませたい書である。宜なる哉放送局では本書によつて或は劇に或は朗讀に既に二回放送した。子女教養の任にある方にその資料として薦む

# 野口英世と小林先生

小林榮先生遺稿  
文部省圖書監修官  
宮瀨陸夫編

B6三〇五頁  
紙装上製函入  
定價一・八〇  
送料〇・一四

この「師」ありて  
この「弟」あり。  
「日本の師弟」の  
典型といふべし

野口博士の盛名の蔭に小林先生のあつたことを知れ。師弟道復活の爲に。小林先生は博士の小學校時代よりその歿後に至るまで全く博士の爲に一生を捧げ盡した。或時は嚴父の如く或時は慈母の如く、それはむしろ師弟の間柄といふより親子の情愛であつた。本書は小林先生が、博士の一生を愛と涙で追憶し、又博士よりの親と慕ひて書き送つた數多の書簡について博士の人物を讀へ洵に美はしき師弟愛物語である。師弟愛全く地に墜つる今日の日本に、本書の刊行は洵に意義あるものと信ずる。御愛讀を乞ふ。



大東亞戰爭を契機として教育界にも世界史的轉換期が來た。全く新しき理想と構想と廣大なる意圖のもとに、教育全體系を再建すべき秋である。本書はかかる時代の課題に應へ、特に文部省教育調査部の企畫指導のもとに、慎重立案されたもの、教育文化政策の全部面にわたり、遠大なる視野に立ちて、興亞教育の一大道標を確立したものと信ずる。

# 大東亞教育叢書

全十二卷

- 一、大東亞教育の指導理念と構想 興亞院文化部長 醫博 松村 信三
- 二、東洋文化と大東亞教育 建國大學 教授 森 弘
- 三、東洋哲理と大東亞教育 國民訓育聯盟理事長 草場 弘
- 四、東洋藝術と大東亞教育 帝國美術學校教授 金原省吾
- 五、南方文化圏と植民教育 文部省圖書監修官補 舟越 康壽
- 六、南方民族と宗教問題 大正大學 教授 久野 芳隆
- 七、南方資源と國土計畫 商科大學 教授 佐藤 弘
- 八、大東亞經濟と教育問題 文部省督學官 經博 大畑 文七
- 九、大東亞建設と言語教育 國語協會 主事 石 黒 修
- 一〇、大東亞建設と科學技術教育 技術院參技官 工博 清水 勳二
- 一一、大東亞建設と青少年教育 大日本青少年團副團長 朝比奈 策太郎
- 一二、大東亞建設と國防教育 大日本翼賛壯年團幹事 白根 孝之

各地書店及本社宛申込むこと。發行順配本す。豫約金は不要。

B 6 判 各卷 定價一・八〇 送料〇・一五



259  
854



